

【優秀賞】

タイトル：私はその時何してた？

生徒氏名：小林美月

「返して！」

この声が私のクラスの中で聞こえてきました。一人の男子がある男子にちょっかいを出していました。ある男子の筆箱をとって、返さずに面白がっているのです。私は友達と、

「止めさせた方がいいよね。」

と、話していました。けれどもなかなか私は言い出せずにいました。男子は周りから少しずつ出てきた

「やめなよ。」

という言葉に耳をかたむけずに、ちょっかいを出し続けていました。チャイムが鳴って、やっとちょっかいを出すのをやめました。自分達でやめさせることはできませんでした。

その男子は私と同じ小学校でした。小学校の時から先生に怒られてばかりでたまにちょっかいをかけていたこともありましたが、中学校に入学してからはさらに悪くなってしまっていて入学した時の頃はほとんど毎日、問題が起こっていました。今でも問題は起こっています。

ある日、家に帰ろうと友達と玄関に行くとその男子とまた違う男子とケンカをしているのを見ました。少しずつ激しくなっていくケンカを止めさせようと思い、

「やめなよっ、やめなっ！！」

と言葉をかけてはみたものの、止める気配はなく、手が出始めた時、私は怖くて止めさせられずに、落ち着くまで見ているしかありませんでした。私は、

「何で止められなかったんだろう？自分が勇気を出せば…。」

とその時考えてしまいました。今考えても、

「私がもう少し勇気があればなあ。」

と思います。

ある道徳の時間に、「いじめ」についてクラスで話し合いました。それは、

「いじめられている人がいれば、いじめている人がいる。でも、いじめている人とは直接的に相手にいやなことをする人だけなのだろうか。」

という問いを出されました。私はしばらく、

「どういうことだろう？」

と聞いていましたが、先生の説明を聞くと、

「あっ！そっか…」

先生の説明では、「直接的ないじめ」の周りには、

「知らんぷり」

「見て見ぬふり」

「関係ない」

と知っている人が必ずいるからなかなか「いじめ」がなくなる、ということでした。

「そっか…そうだよな…私はその中にいたから…」

私は思い、なかなか止まらなかった、「いじめ」の原因は私達、周りの人にもあったんだと考え始めました。他の道德の時間でも「いじめ」についての話し合いをしました。今度は、

「自分以下を求める心」

というテーマでした。この時、自分以下を作ることで自分を安心させようとしているのだと思いました。私はその考えも分からなくもないなと思いましたが、それは自分も弱くなっていくと思います。私は、自分以下の人ばかり求めていないで自分以上を見つけていくことで、自分の心を大きくすることができると思うのです。なので、道德の時間にそのことに早く気付いてほしいなと思いました。

私はその後、しばらくそのことを考えていました。

なかなか止まらなかった「いじめ」は、一部の人達だけが悪かったわけではないんだ、「知らんぷり」、「見て見ぬふり」、「関係ない」と、思っている人の中に私がいたのかもしれない…いや、私はこの中にいたんだって、心の中で反省していました。

その時ふと、直接的にいじめている人というのは、なにか心の中に抱えているのではないだろうか？だから問題を起こしてしまうのではないのでしょうか？と思いました。

私はこのことを考えてから自分なりに「いじめ」に向き合うために大切なこと二つに気が付きました。

一つ目は、自分には関係ないという考えを持たずに勇気を出すことです。この考えはいくらでも書けます。いくらでも口に出せます。でも、行動に移すことは難しいことですが、この壁を突き破り、一歩踏み出すことが必要だと思います。

二つ目は、気付くことです。直接的にいじめている人は何でそんなことをするのか、何か抱えているのかに気付くことが大切です。

私はこの二つを大切に「いじめ」に向かって一歩ずつ進んで行きたいと

思います。そして、誰もが相手のことを思いやり、心に抱えているものに
気付き合える社会を築いていき、笑顔が絶えない環境で毎日を過ごしたい
です。